

職員による自己評価

A環境面

- 室内は決して広いとはいえないが、範囲内で活動できている
- 運動の内容次第で、室内スペースに狭さを感じる時はある
- 職員の配置は適切に行われている

B 児童への支援内容

- SST に注力し、運動プログラムからの学習への切替わりも定着してきていると自負している
- 活動プログラムが固定化しないよう、日々異なったプログラムを提供できている

C 関係機関との連携

- 計画書見直し時期など必要に応じて児童併用先の事業所や学校と連携をとっている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- お迎え時に当日の様子をお伝えしている。
- 毎月通信として書面での情報発信に加え、毎週週次日報を書面にて発信している。

E 非常対応

- 半年ごとに避難訓練週間を設け、全児童実施している。

保護者による評価

A環境面

- 事業所内のバリアフリーに関しては気にしたことがないのでわからない。
- 活動等のスペースは十分に確保されていると思うが、日によっては狭いとも感じる。

B 児童への支援内容

- 他施設の他児童と交流しているか分からないが、交流機会は無くて良いと思う。
- 毎週テーマが決まっているのでわかりやすく取り組みやすいと思う。

C 事業所からの情報発信

- その日の様子を送迎時に口頭で教えていただけている。週に1度紙面でも日報があるので助かる。
- 保護者会等の開催は必要性を感じない。
- ブログはあると知っているが、まだ見た事がないので今後見てみようと思う。

D 非常対応

- 半年に一度 定期的に訓練が行われていて、子どもも避難訓練の場所等把握ができている。
- 入所し間もないので、まだ分からない。現段階では、詳しく説明は受けていない。

事業所内での分析

【共通点】

StepUPと名称を変更し3年目で、ようやく運動プログラムとコミュニケーションプログラムが上手く定着してきている。日々の支援内容や支援方法など多くのご支持はいただけていると感じる。しかし、イベントなどを求めてくださるお声もあった為、さらに違ったアプローチも必要と感じており、事業所側も呼応したい想いもあることから共通していると認識している。

【相違点】

週次日報を毎週お渡ししていたが、細かな内容が上手く伝わっていない事や、また、避難訓練実施の状況に関しても、まだ若干の説明不足があることも把握できた。

児童が他事業所との交流機会や、保護者様同士の交流機会を望んでいない声も多くあった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

SSTに注力し、コミュニケーション能力と運動能力向上に努めている。これまで重視していたトレーニング参加に対しては「自主性」と「肯定」で、意思決定を促しているため、強制参加ではなく”考える力”や”周囲を見る力”を育てている。未就学児から高校生まで幅広く受け入れを行っているので、多角的な交流が出来る。今年度「公開トレーニング」という初めての試みイベントを行い、好評のお声を頂いているため、続けていく。

事業所の改善点

今年度も事故/怪我がなかったのは大きな実績だが、今年度だけで約15名以上の新規児童入所があったため、「活動スペースの広さ」や「職員育成」も今一度見直していきたい。非常対応などの説明不足も含めて、より細やかな情報共有と説明が必要である。これまで行っていなかった様々なイベントなど、新たな取り組みも同時に行っていく。

事業所の改善への取り組み

日々の朝礼・昼礼・終礼に加えて、毎月開催している職員会議・支援会議等での職員間の詳細な情報共有を継続しつつ、職員同士でも厳しい指摘と研鑽を行う。会議とは別に、職員育成の観点から定期的に研修も行っていく。また、外出イベントや保護者参加型のイベントなど、新たな取り組みも同時に行っていく。保護者様から好評のお声を頂いている中高生に対する進学/就労に向けた「中高生講座」は、これまでからテーマを見直してブラッシュアップしていこうと考えている。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケートの結果、昨年同様、概ね評価をいただいているようで、大変な励みになった。今年度15名以上の新規児童が入所していただいたので、今後これまで以上に支援や情報発信、新しいイベント企画など様々な業務を見直していき、児童や保護者様が楽しく満足して通所出来る施設を目指していきたいと思う。今後もPDCAを用いりながら気を引き締めて業務を行いたいと思う。

事業所名 StepUP 蒔田通町教室

担当者 管理者 小山田 和矢